

七ヶ宿小

地域と一体 特色ある学び



これがイチオシ

豊かな湧き水で米作り

七ヶ宿町は、ダムや江戸時代の宿場町といった印象が強いですが、自然の恵みを生かした米作りも盛んです。豊かな湧き水を使って「七ヶ宿源流米」というブランド米を作っています。

七ヶ宿小学校でも、総合的な学習の時間に、地域の方に協力してもらい、種まきから収穫まで、源流米作りに取り組んでいます。自分たちで育てた「やまのしずく」という品種の米は、給食でも提供されます。ダムや歴史、自然に囲まれた七ヶ宿町は、わたしたちの自慢です。

学校名 七ヶ宿町立七ヶ宿小学校
住所 七ヶ宿町利津保16の1
創設 2014年
電話 0224(37)2320
校長 千葉 純也
児童数 51人

夏には町の一大イベント「わらじで歩こう七ヶ宿」に全校で参加します。参加交代路として栄えた七ヶ宿街道を6年生は自分たちが手作りしたわらじを履いて歩きます。縦割り班で、学年が下学年を励ましなが約12キロの道のりを歩きます(今年は約6キロ)。道中、飲み物や食べ物がある舞われ、子どもたちは毎年、イワナの塩焼きをおいしそうにはおぼります。



編集委員 栗野楓、梅津詩衣那、小林朔、高橋身依、武田好誠、村上凜花、大和哲朗、高橋龍矢(6年)
指導教員 今野智之

わらじ歩き、スキー大会

七ヶ宿小学校は、地域の方たちに支えられた学習活動を行っています。

秋には、小中学校、高校、町民が一堂に会して、町学校音楽祭や町民体育大会が行われます。冬には七ヶ宿スキー場を会場に行う登山やグラウンドゴルフ大会なども行っています。

に小中学校、高校合同で行う、町学校スキー大会があり、大会に向けた練習会には、地域・保護者ボランティアの協力をいただいています。地域の特色を生かし、地域と共にある学習活動を展開している七ヶ宿小学校です。

わが校わがまち スクール通信



次回は休みます

金が縁 東大寺に米を献納

寛岳白山小

5年生が田植え、稲刈り

寛岳白山小学校がある浦谷町は、奈良時代に日本です。産出された金は、奈良の東大寺の大仏を作るのに使われました。その縁で、小学校の学習田で収穫した浦谷町のブランド米「金のいぶき」を、毎年、東大寺に献納しています。

「金のいぶき」は、毎年、5年生が育てます。4月に地域の方々の協力の下、種まきをし、たっぷり水やりをします。5月には、成長した苗を田んぼに植えます。はだしで田んぼに入ると、ひんやりして今まで感じたことのない感覚です。9月には、鎌で稲刈りをします。普段、機械で稲刈りをしているところを見て、手作業は大変だと感じます。



編集委員 門田颯太、後藤佳無、藤村愛璃(6年)福田純己、小谷しのぶ、館野内康生(5年) 指導教員 木村拓哉 川村誠基

これがイチオシ

よさこい踊り 心一つに

寛岳白山小学校は毎年、5月の運動会の最後に全校児童で「寛白よさこい」を踊ります。練習は2～3月から始まります。運動会前には、浦谷町のよさこいチーム「祭・WAKUYOSA舞校」さんに踊り方を教えてもらいます。全体を使って、全校児童が心一つにして、一生懸命練習を重ね、運動会本番を迎えます。踊り終えた後は、やり切った達成感でいっぱいです。

「寛白よさこい」が始まってもうすぐ10年です。これからも伝統の「寛白よさこい」を大切にしていきたいです。

学校名 浦谷町立寛岳白山小学校
所在地 浦谷町太田台78の2
創立 2016年
電話 0229(45)2117
校長 三浦 良人
児童数 76人

働く仕組み 体験学習
富谷で「キンダータウン」

木製の箱を塗装する仕事にチャレンジする児童



小中学生がさまざまな仕事を体験する催し「とみくろキンダータウン」が、富谷市の富谷武道館であった。参加者は報酬として得た専用通貨で買い物も楽しみ、社会の仕組みを学んだ。

教育イベントを企画する市内のNPO法人キンダーフォーラムが主催し、約30人が参加。地元企業5社が出展したブースでそれぞれの仕事に挑戦した。ドローンを操縦して輪の中を通したほか、ペビリーフを袋詰めしたり、土や小さな模型でミニチュアの庭を造ったりした。

参加者は仕事の内容や量に応じて、会場内だけで使える通貨「とみくろコイン」を獲得。買い物用のスペースで菓子や飲み物と取り換えた。

木箱をローラーで塗装する仕事を体験した富谷小2年遠藤叶愛さん(7)は「うまく塗ることができた。仕事をするのは大変だけど、『お給料』をもらえるのはうれしい」と話した。

とみくろキンダータウンは19日にあった。開催は初めて。キンダーフォーラムの三國陸真理理事長は「今回は市民生活を体験してもらった。将来は取り組みを発展させ、子どもたちを主体としたまちづくりの促進につなげたい」と語った。(10月29日朝刊より)

「スチューデントシティ」は、仙台市内の小学5、6年生がお仕事をして給料をもらい、買い物や納税をする「小さな街」です。河北新報社は、新聞づくりなどの仕事を体験する支局を開設しています。

河北新報の仕事 がんばった
仙台市スチューデントシティ支局員紹介

加茂小6年、立町小6年 (10月24日)

長町南小6年、桂小6年 (10月28日)